

## 要旨

### 【目的】

本研究の目的は、妊娠中に HUG Your Baby を受講した母親のクラスの内容や教材の活用に関する質問紙の分析と育児体験に関するインタビューによってプログラムの有用性の評価することである。

### 【方法】

本研究は、新福らの研究でプログラム実施後に取得した質問紙データの分析と今回追加で行うインタビュー調査を統合するプログラム評価研究である。質問紙から得たデータ(クラス実施後、産後 1 か月、産後 3 か月)の度数、平均値、標準偏差、中央値、最頻値を算出し、産後 1 か月と産後 3 か月の差をみるため Wilcoxon 検定を行った。インタビューは生後 3～7 か月の児をもつ母親 3 名に半構成的面接を行った。インタビューから得た質的データから逐語録を作成し、Bowen et al. (2009)の介入研究の評価方法を参考に、需要と実用性の 2 つの項目をもとに内容分析を行った。

### 【結果】

質問紙調査は産後 1 か月と産後 3 か月の両方に回答した 82 名を対象とした。産後 1 か月と産後 3 か月の教材の使用頻度を比較すると、以下のすべての教材で産後 3 か月の使用頻度が有意に高かった。「新生児の行動の DVD」( $p=0.000$ )、「新生児の行動のリーフレット」( $p=0.000$ )、「母乳育児の道のりのリーフレット」( $p=0.000$ )、「おくるみ」( $p=0.001$ )。また、教材のわかりやすさを産後 1 か月と産後 3 か月で比較し、有意差が認められたのは「新生児の行動の DVD」( $p=0.032$ )と「母乳育児の道のりのリーフレット」( $p=0.009$ )の 2 つであった。HUG Your Baby のクラスを他の人に勧めたいかの項目では、産後 1 か月、産後 3 か月ともに 9 割以上の母親が「すすめたい」「とてもすすめたい」と回答し肯定的な評価が多かった。

インタビューの結果を需要と実用性の視点から述べる。需要として HUG Your Baby のクラスに参加したきっかけや受講したかった理由を問うと、ベビーサインや HUG Your Baby のタイトルのポジティブなメッセージ、おくるみをもらえることが関連していた。また、3 名の母親に共通していたのは、育児は大変というイメージであり、ストレスを溜めずに子どもを愛したい、よりお利口さんになってほしいという気持ちがあった。

実用性として、クラス当日の内容の効果とクラス後 3 か月間の効果を問うた。クラス当日の内容の効果としては児の睡眠パターンに合わせた授乳や寝かしつけができており、育児体験談に助けられている母親もいた。また、教材を持ち帰ったことで、上の子が泣いている児に対し DVD で学んだ泣き止ませる方法を実践したり、祖父母に新生児の行動のリーフレットを見せ、根拠づけて児の状態を説明したりしていた。

### 【結論】

HUG Your Baby のクラスを受講したことで新生児の行動を理解し、児の泣きに対応し、育児を楽にしたいという気持ちに沿った内容であった。また 4 つの教材は育児の経過とともに使用頻度は高まり、家族と共有できたという側面からも教材の実用性は高く、プログラムの有用性が確認された。今後は、より多くの母親やその家族の役に立てるよう、教材を改善することが示唆された。